

6年 英語演習α 単位数：2単位(必修選択)

教科書：Crown English Communication II

副教材：Cutting Edge Orange(発展)、Cutting Edge Blue(標準)、CROSSBEAM 4(基礎)

学習目標

<本校の英語科の目標>

国際的な感覚と教養を持ち、実践的に英語を活用してコミュニケーションを図ることができる。

- (1) 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4技能について、偏りのない総合的な英語力を身につける。
- (2) 語彙力・文法力・構文力に基礎をおき、幅広い英文を理解しそれに対しての自分の意見を表現する。

<第6学年の目標>

- 話す、聞く、読む、書くというそれぞれの力をバランスよく身につける。
- インプットした知識や内容を、表現活動において積極的にアウトプットする。
- 語彙力、文法力、構文力に基礎をおき、幅広い文章を理解して自分の意見を表現することができる。
- STEAM 教育をふまえ、多岐に渡るトピックに触れ、国際社会に通用する教養と英語力を身につける。

学習方法

- 既習の文法や語彙についても、「他人に説明できるまで」適宜復習・反復練習を行う。
- 文法学習を軽視せず、「なぜそうなるのか」という観点で常に根拠を追及し論理的に深く考える。
- 語彙力・構文力の強化を図る。専門的な分野の語彙にも触れ、教養を深める。
- 文系、理系を問わず、いろいろなテーマの英文に触れ、それに対する自分の意見が持てるようにする。
- 共通テストから国公立2次まで、あらゆる形式の大学入試問題に対応できる英語力をつける。
- (難関大志望者は特に)扱う英文を日本語で要約する訓練を重ねる。

評価の観点・方法

以下の観点に基づき、生徒一人ひとりの活動を単元ごとに評価を行います。

観点①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている。 予習・復習を行い積極的な態度で授業に参加しようとしている。				
観点②表現の能力	既習の文法事項を使いまとまった長さの英作文が書ける。 自分の意見を積極的に発言している。				
観点③理解の能力	英語の情報について正確に聞いたり読んだりできる。 読んだ情報をもとにして問題に正確に取り組むことができる。				
観点④言語や文化に対しての知識・理解	語句や文に関しての知識を身につけることができる。				
	評価の方法／観点	①	②	③	④
	授業の活動・態度の観察	◎	○		
	提出物	◎			
	定期考査・小テスト		◎	◎	◎

学習内容

	具体的な学習到達目標	学習内容／教材	特記事項・他
1 学 期	＜発展クラス＞ 高度な内容で複雑な構造の英文、抽象的な英文を読むことに慣れる。 ＜標準クラス＞ 色々な分野の長文に慣れ、論理構造を追いながら読むことができるようになる。 ＜基礎クラス＞ 既習の文法事項を英文の中で見つけ、理解し、構文を正しく取りながら英文を読めるようにする。	＜発展クラス＞ Cutting Edge Orange による長文読解演習 ＜標準クラス＞ Cutting Edge Blue による長文読解演習 ＜基礎クラス＞ CROSSBEAM 4 による長文・文法演習	考査は共通問題＋クラス別選択問題の形式で実施する。
2 学 期	＜発展クラス＞ 高度な内容で複雑な構造の英文、抽象的な英文を、速く正確に読みこなすことができる。 ＜標準クラス＞ 色々な分野の長文に慣れ、論理構造を追いながら読み、設問に正対して解答を作成できるようになる。 ＜基礎クラス＞ 比較的長い英文が読めるようになり、設問に正確に答えることができるようになる。	＜発展クラス＞ Cutting Edge Orange による長文読解演習 ＜標準クラス＞ Cutting Edge Blue による長文読解演習 ＜基礎クラス＞ CROSSBEAM 4 による長文・文法演習	考査は共通問題＋クラス別選択問題の形式で実施する。
3 学 期	共通テストで受講者の平均が下記を超える。 発展クラス 90% 標準クラス 75% 基礎クラス 60%	入試対策個別演習	

学習のアドバイス

- 与えられるのを待つのではなく、自分から行動を起こす。
- 学校に通いながら勉強を進める以上、授業を中心に予習・復習を組み立てることが最も費用対効果の高い学習方法である。
- 予習＝「理解できる/できない」の仕分け 授業で明らかにすべき内容を決める時間 必ず行う。
- 授業＝上記内容を解決し、復習すべき内容を決める時間 必要な情報はメモを取る。
- 復習＝授業内容についてアウトプットで知識の定着を図る時間 目と手と口（音読）を使う。
- 「わかる」＝その仕組みや根拠を他者に説明できること 「何となく」「感覚で」等根拠の曖昧な「わかったつもり」を脱却する。
- 定期考査・模擬試験等で間違えた/わからなかった部分は自分専用の最高の問題集である。必ず解き直しをする。
- 音読を毎日行う。目だけでなく、手と口を動かす方が効果が高い。
- 質問しあえる雰囲気、教え合える仲間を作る。不明点は放置せず仲間や先生に相談・質問する。
- 大学で活用するだけでなく、生涯にわたり再度勉強する必要が生じる or 学びたくなるのが英語である。あなたの南多摩での努力を、未来のあなたは必ず評価するであろう。本気で取り組むべきである。